

「平成30年度全国学力・学習状況調査」の結果について

教科の調査結果にみられる特徴と現状分析

<p>概要 本校児童は、正答率において全国平均や県平均をほぼ上回っている。しかし、個々に見ていくといくつかの課題が明らかになった。</p> <p>各教科テストについて</p> <p><国語A（主として知識）> すべての領域において、全国平均や県平均を上回る。とくに「読むこと」の領域については全国平均よりも6%ほど正答率が高い。また【話すこと・聞くこと】、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域においても全国平均より4%ほど上回っている。しかし、選択式の問題は正答率が高いが、短答式の問題は正答率が低くなっている。</p> <p><国語B（主として活用）> すべての領域において、全国平均や県平均と同等の正答率であった。また、国語Aと同様に、選択式の回答率はよいが、記述式の回答率は全国平均より低いことが明らかになった。</p> <p><算数A（主として知識）> すべての領域において、全国平均や県平均と同等の正答率であった。短答式の問題については、全国平均を4%ほど上回る結果であった。しかし、選択式の問題では若干全国平均を下回る結果となった。</p> <p><算数B（主として活用）> ほとんどの領域において、全国平均や県平均を上回っている。「数と計算」「量と測定」「数量関係」においては全国平均を3%ほど上回る結果であった。しかし、「図形」においては全国平均を3%ほど下回っていた。</p> <p><理科> 「知識」及び「活用」に関する問題どちらも全国平均を上回る結果となった。とくに「エネルギー」「生命」の領域においては、全国平均を3%～4%ほど上回る結果となり、短答式の問題については、全国平均より9%ほど高い正答率であった。</p>
--

改善計画等

<p>全体的には、本校児童は、正答率において全国平均や県平均をやや上回っているか同等である。しかし個々に細かく見ていくと、いくつかの課題が明らかになり、それらの課題を整理し、支援していくことで更なる伸長が期待できる。</p> <p><国語A（主として知識）> よくできており、すべての領域において全国平均や県平均を上回る正答率ではあるが、設問によっては苦手としている傾向が見られるものがある。特に「伝統的な言語分野と国語の特質に関する事項」の領域の一部が若干劣っており、次の項目について重点的に指導する。 今後も一つ一つの言葉に着目させ、意味の正確な理解や活用力に向け指導をしていく。 ・文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く。</p> <p><国語B（主として活用）> すべての領域において、全国平均や県平均と同等である。その中で、全国平均や県平均を下回る正答率であり、重点的に指導していかなければならないものは次のものである。 ・「話すこと・聞くこと」話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。 ・「書くこと」事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。</p> <p><算数A（主として知識）> すべての領域において、全国平均や県平均と同等である。その中で、正答率が全国平均や県平均を下回る設問があり、次の項目を今後重点的に指導をする。 ・「図形」円、球について知ること。また、それらの中心、半径、直径について知ること。円周率について理解すること。【円周率を求める式として正しいものを選ぶ】 ・「数量関係」変化の様子を折れ線グラフを用いて表したり、変化の特徴を読み取ったりすること。折れ線グラフの読み方やかき方について知ること。【示された事柄が両方当てはまるグラフを選ぶ】</p> <p><算数B（主として活用）> 領域別に見ると、「図形」のみ正答率が全国平均を下回り、他の領域の正答率は全国平均や県平均より高い。次の項目を今後重点的に指導をする。 ・「図形」二等辺三角形、正三角形について知ること。平行四辺形、ひし形、台形について知ること。多角形や正多角形について知ること。図形の合同について理解すること。図形の性質を見だし、それを用いて図形を調べたり構成したりすること。【図形の構成要素や性質を基に、集まった角の大きさの和が360° になっていることを記述できる】</p> <p><理科> すべての領域において全国平均や県平均を上回る正答率であるが、設問によっては苦手としている傾向が見られるものがあり、次の項目を今後重点的に指導する。 ・「B 生命・地球」人の体には骨と筋肉があること。人が体を動かすことができるのは、骨、筋肉の働きによること。</p>
--

学習状況調査のうち、特徴的なもの

質問項目	江戸小	全国	質問紙の調査結果にみられる特徴と現状分析
好ましい習慣が多かったもの（特徴的なものの抜粋）			・特徴的なものを抜粋して掲載した。好ましい習慣が身につけている項目と、そうでない項目について分析を行い、子ども達のよりよい成長のために日々取り組んでいきたい。
将来の夢や目標を持っている	76.3	68.2	・将来の夢や目標を持っている児童の割合が全国平均より高い。自分の夢に向かって努力をするという高次な意欲につながるよう、日々子ども達に支援や励ましを行い、将来に対する前向きなビジョン形成につながるような教育活動をさせていきたい。
いじめは、どんな理由があってもいけないことだ	100	96.4	・いじめに対して100%の児童がいじめないものだという意識を持っていた。これは日々の生活での生徒指導や道徳の日、道徳の授業において道徳心が育てられてきた証と捉えられる。子どもがそれぞれの個性を尊重し、互いに認め合う温かな心を引きつづき育て、いじめゼロを子どもと教師の合言葉として生活していきたい。
テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る	67.7	57.3	・テレビやインターネットのニュースを見たり、新聞を読んだりする児童の割合が全国平均より高いことから、社会の動向に関心が高いことが伺える。日々の社会の出来事を適宜子どもと話題にしたり、授業に取り入れることにより、意欲的に社会と関わりを持つよう大人へと成長させられるようにしていきたい。
週に1回以上新聞を読んでいますか	24.7	19.9	・1時間以上日々読書をする児童の割合が高い。葉の会やお話玉手箱の方々に読み聞かせを行ってもらうことにより、本に親しみをもち、日々の読書習慣形成につながっていると考えられる。また、学校図書館を整備したり、子どもが本を手に取りやすいような校内環境整備に努めてきた結果と捉えられる。今後も読書好きな児童の育成に努めていきたい。
平日に家で、3時間以上勉強している	14.0	12.5	・平日家で3時間以上勉強している児童の割合が全国平均より高い一方、平日の勉強時間が30分以下の児童の割合が20%ほどであった。学校の宿題や授業の予習・復習等において、自分で計画を立てて家庭学習をする習慣が身につくよう、家庭と連携しながら引き続き指導にあたっていきたい。
学校の授業時間以外、1日1時間以上読書をする	34.2	19.3	・学校のきまりを守っていないと感じている児童が多い。集団生活を送るうえで、互いに生活しやすい環境づくりの促進、ルールを守ろうとする規範意識の形成は大切である。加えて、子ども自身がきまりを守っているという自覚を持たせることも重要である。自分自身の行動に自信を持ち自尊感情を高め、充実した学校生活を送れるよう教職員一同教育活動に取り組んでいきたい。
改善が必要なもの（特徴的なものの抜粋）			
自分にはよいところがあると思うか	33.3	41.2	
学校のきまりを守っていますか	18.3	43.8	
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか	31.2	41.4	
自分で計画を立てて勉強していますか	20.4	30.7	
学校の宿題をしていますか	81.7	87.9	
学校の授業の予習・復習をしていますか	14.0	27.7	